

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	272701038		
法人名	社会福祉法人恵心会		
事業所名	グループホームしろやま		
所在地 (電話番号)	〒039-0112 青森県三戸郡三戸町梅内字桐萩162-8 (電話) 0179-20-0260		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 2月 17日	評価確定日	平成 21年 4月 2日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	4,500 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.69 歳	最低	79 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三戸町国民健康保険三戸中央病院、田島医院、石亀歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名所城山公園の麓に位置し、役場など中心街が近く、住宅街に隣接している。ホームのすぐ隣に田んぼがあり、目の前に名久井岳のパノラマが拡がり、ホールの大きなテーブルを囲み、みんなで季節感が味わえる環境となっている。住宅街と面する道路側に花壇や畑があり、作業や散歩で近所の方との挨拶や交流が日常的に行われている。利用者の出来ることを活かし、それぞれが穏やかに共同生活を送っている。職員の異動も少なく利用者への配慮がなされている。母体の法人と連携が行われ、職員の意見もケアに反映するなど、全体で更なるサービス向上を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護サービス計画で作成者と担当と情報交換して、現状に沿った支援に取り組んでいる。記録物についても、新たな様式を職員が活用し、効率化も図られている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	家族との情報交換、アセスメント力の向上で、利用者本位のプラン作りに取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的な運営推進会議を活用し、地域との交流や地域への貢献に取り組みたいという思いがあり、事業計画を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	苦情受付ボックスの設置、オンブズマンの受け入れをし、家族の意見や苦情、不安等を聞いて運営等に取り組む体制作りはできている。家族との情報交換も担当が近況報告を積極的に行い、連絡を密にしてい等の取り組みに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣所の方々と日常的に挨拶や交流がある。近くの幼稚園や小学校と事業所間でそれぞれ交流している。独自に開催した慰問コンサートで地域交流も図られている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、その人らしさを大切にするグループホーム独自の理念がある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、週1回の朝の申し送り時や事ある毎に復唱しており、共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	管理者や職員は近隣所の人に挨拶をしたり、畑や花壇で作業中に声かけされたりとの交流がある。近所の方から手作りの木工品や花、果物を頂いている。近くの保育園や小学校と事業所間でそれぞれの行事で交流している。昨年10月には独自企画した慰問コンサートで地域交流している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果を職員に伝え、記録の形式を替え、職員の気付きや意見交換がなされアセスメントやプランに反映している。改善しようという意識があり、具体的に実施されている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月ごとに開催し、事業報告などを行い情報交換している。会議での意見をとり入れ、畑を敷地内に設けるなど、運営推進会議の結果を運営に反映させている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要な時、介護保険班に、直面している困難事例等を文書で情報提供し、相談している。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員で権利擁護や人権保護について内部研修会を行った。参加できなかった職員は閲覧し、全職員で情報を共有している。文書はいつでも見られるようにしている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人のマニュアル規定があり、職員で内部研修をした。参加できなかった職員は閲覧し、全職員が共有し防止に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約時には、十分に家族に話し合いの機会を持ち、理解をいただけるように努めている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事業所の状況、利用者の行事参加の様子など写真を添え、広報誌を年4回発行している。利用者の状況変化がある場合はその都度担当から、重要なことは管理者から電話連絡をしている。年2回預かり金等を報告している。定期的に状況を報告する機会が少ない。</p>		<p>変化のない場合もあり連絡回数が利用者によって異なる。毎月の請求書に担当からの一言を付け加えることで、家族に近づくと思われるので取り組みに期待したい。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情受付ボックスを設置し、オンブズマンの来訪も月1回ある。苦情や意見を受け付けた場合は、全職員や法人で取り組む体制が出来ている。経過は運営推進会議で報告している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の人事異動はあるが、利用者に与える影響を考慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定を立てて、行っている。内部研修を毎月行い、参加できなかった職員は資料を閲覧し共有している。月1回法人内のグループホームとの研修や外部研修の伝達研修を行っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと昼食会を行い、実際に職員の意見が出るようになってきている。他の事業所で行っている事を取り入れたこともある。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や自宅訪問を行っている。入居してからも在宅生活の時のケアマネージャーや家族の協力を得て、利用者が徐々に慣れるように支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農業経験者の利用者が多く、畑の作物作りを一緒に行き、教えてもらっている。昔のおやつ作り、食事の準備などを一緒に行き、味わっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夫の位牌を持参された方や洗濯たたみする方など、一人ひとりの思いや暮らしの意向を大切に、さりげなく支援している。意向の把握が困難な時は家族から情報収集し、本人本位に検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の利用者の様子や面会時に家族から意見を聞いたり、担当者から計画作成者が情報収集し、利用者の現状に即した計画を家族に提案し、職員で課題を共有し介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しが必要な時は、本人や家族、担当者など関係者と話し合い計画を変更している。家族が遠距離で参加が難しい時、急を要する時は電話で意思確認を行うこともある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望の行事企画や事業所で受診支援をしており、柔軟な支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望に沿い、入居前からのかかりつけ医への受診支援を行い、主治医と連携している。他の科の受診が必要になった時は家族と相談し対応している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	週1回法人の看護師が健康管理を行って、利用者と職員の安心感が高まっている。現在、車椅子使用者が4名で、重度化しており今後の方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的に利用者への言葉かけは自尊心を傷つけないように配慮している。記録など個人情報は事務所内に管理し取り扱いに配慮している。脱衣場の引き戸が摺りガラスになっており、人の動きが廊下側にわかってしまう。		脱衣場の様子が廊下側に伝わらないような工夫を期待したい。又、脱衣場入り口の手すりに、タオル等が入ったビニール袋が並んでいる。良く見ると名前が分かるようなこともあり、プライバシーの確保に再検討を期待したい。
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の方針でホールに日課を張り出しているが、日課や入浴はその時の利用者の状態に合わせ、一人ひとりにゆったりできるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり出来る事を行っている。テーブルの献立を利用者が読み上げたり、茶碗を誕生日にプレゼントして使ってもらったりして食事が楽しみなものとなるよう工夫している。デザートは一人ひとりの好みなどに合わせているが、献立は法人の管理栄養士が作成し、利用者の嗜好を伝える機会が少ない。		栄養士との連携を密にして、より食事が楽しみになるような取り組みに期待したい。
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望や状態に合わせ、菖蒲湯など季節に合わせて工夫している。毎夕に足浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や編み物など希望した利用者への支援はできている。畑や花壇の作業は利用者や職員全体で積極的に行われている。鉢植えの水やり、仏前の供え物など生活歴に沿った支援ができている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の畑や花壇、近くにりんご畑などがあり、戸外に出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人のマニュアルがあり研修も行っている。法人内でヒヤリハットがあった時は事故防止委員会を開催し、事業所で共有している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関などは日中施錠していない。防犯上夜間は玄関、戸や窓の施錠を行っている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回避難訓練を行っている。消防や地域の協力を得た消防訓練は年1回行っている。事務所内には緊急時に職員の自宅とをつなぐ自動通報装置がある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事や水分量は記録し、不足と思われる利用者には回数を分けたり、好みの物を提供するなど、確保できるように支援している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり活用している。月1回法人内の衛生委員会があり、会議録を閲覧し情報を共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールや廊下に植木鉢や作品を飾っている。大きなガラスから外を眺め、季節を感じたり和める雰囲気作りを行っている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスや位牌など馴染みの物が置かれている。写真などを飾り、殆どの居室の入り口に、利用者と協同作成したのれんが飾られている。温かみのあるベッド作りは検討中。</p>		

 は、重点項目。